

令和2年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110	伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する
施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる
施策の目標	すみだの歴史や文化に区民がふれることで、郷土に対する理解・愛着が深まり、さらに区民が将来にわたり伝統文化を継承、発展させ、文化財が大切に保護されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	71.6				77.0					80.0
実績	71.6									

指標名	「墨田区の歴史や文化を学んでいる」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	24.1				39.0					50.0
実績	24.1									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
平成8年3月に東京都指定文化財の名勝に指定された旧安田庭園において、平成17年度に旧安田庭園整備保存管理計画を策定し、平成20年度まで喫緊な課題について短期整備を進めてきたが、その後、両国会堂の活用計画との調整を図るために一時事業を休止していた。 平成27年度に新たに旧安田庭園中期整備計画を策定し、現在、文化財庭園としての価値を高める魅力ある庭園整備を継続実施している。	H29	75,711
	H30	49,572
	R1	24,873

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	旧安田庭園中期整備計画に基づく整備により、文化財の価値を高めるとともに、庭園としての魅力向上が図られている。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
学識経験者等による専門委員会を踏まえ、中期整備計画に基づき計画的に整備を進めている。	
【今後の具体的な方針】	
中期整備計画に基づき、刀剣博物館などの周辺施設との連携を図り、庭園の保存管理と更なる活性化・魅力向上を図る。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果 評価対象年度
1	旧安田庭園再整備事業	24,873	6,789	31,662	—	現状維持
					—	令和元年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	旧安田庭園中期整備基本計画に基づく整備項目数(累計)				単 位	項 目
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		19	R7	目標	2	9	12	13
				実績	2	9	12	13
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	13	13	14	16	18	19
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	適正かつ円滑な保存管理を段階的に行い、令和7年度までに中期整備計画に基づく整備を終わらせることを目標とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	「伝統文化が保護・継承されている」と思う区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
80		R7	目標	71.6		71.6		
			実績	71.6		64		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		77		77		77	80	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
文化財庭園としての整備を行った結果が、歴史・文化の保護・継承を感じる区民の割合の増加に繋がる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	計画に基づき、庭園を改修することで、文化財庭園としての価値を高め、区内観光に資することができる。 中期整備計画に基づく整備を進め、文化財庭園としての価値を次世代に継承するため、管理手法及び利用促進について検討を行っていく。

課題・問題点
旧安田庭園の魅力を、より多くの人々に知ってもらうため、観光課が行う『納涼の夕べ』や他部署が行うイベントとの連携を増やしていく必要がある。